

2023年3月23日

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業 活動報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	ブータンでの脳卒中デイケアセンター運営 (通常枠)
(2) 実施団体名	チーム 夢のかけ橋
(3) 実施期間	2022年4月1日～2023年1月31日
(4) 実施国	ブータン
(5) 活動地域	ティンパー
(6) 活動概要	<p>①活動の背景： 夢のみずうみ村では、日本在住のブータン人 5 名を有償ボランティアとして 2019 年より受け入れ、リハビリテーション分野でブータン人材育成を実施してきました。藤原茂等とブータン人 5 名は、チームをつくりブータンの福祉の向上のために話し合いを重ねてきました。ブータン側のカウンターパートであるブータン脳卒中協会は近年増加している脳卒中後遺症患者を支援するために設立された現地 NGO であり CSR として認可されています。ブータンでは、特に脳卒中に罹患する患者数が激増しているが、退院した患者の後遺症に対するリハビリテーションや在宅ケアは皆無です。ブータン政府においても人材や予算が不足しているため、公的支援がほとんどなく、スタッフの専門的な研修の場も乏しい。ブータン脳卒中協会より、脳卒中後遺症者への支援スタッフおよび障がい当事者の人材育成について協力要請を受け、活動をはじめました。</p> <p>②活動の目標： 上位目標は 脳卒中に関わる人材を育成し、ブータンのリハビリテーションの底上げを図る。 この事業の目的は 調査・啓発・職業訓練を通じて人材育成を行う。</p>

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

【実施内容①】 調査・啓発・職業訓練を通じて人材育成を行う。

- A) 国連機関（UNDP）や労働省など行政との連携 病院との連携 ブータンの SCR 民間団体（DPO 障がい者機構）との連携を行いました。
- B) JICA ブータン事務所、NSF, CSOA, 看護短大、ADB, FABLAB, 日本大使館との連携・意見交換を行いました。

【実施内容②】 ブータン脳卒中協会のスタッフやボランティアが夢のみずうみ方式「健康トリム」や在宅でできる理学療法などの技能を身につける。

A) ブータンでのオンライン技術講習会

首都ティンプーで、竹内理子・藤原茂などの講師によるビデオカンファランス ZOOM 会議を実施し、健康トリム（自主トレーニング機器）や脳卒中のデイケアなどの技術講習会を小規模で実施しました。月 2 回程度 7 月より月 2 回実施しました。

ZOOM 会議では、ブータンの患者や活動の問題に対して、理学療法専門家が現状把握し、ケア方針・個別のケア目標など具体的な指示を与えてました。

オンライン ケアプログラムは 2 時間実施し、1-3 名の脳卒中患者とデイケアセンター スタッフ・ボランティアに対して、竹内理子と DAWA TSHRING が企画運営にあたり、実施しました。

プロジェクトの記録として ZOOM で記録しました。



【実施内容③】脳卒中患者の利用者が年間通して活動できる、デイケアセンターでの小規模プログラム（ベーカリー職業訓練）などを継続する。

A) 小規模プログラム施行

首都テインプーで小規模 脳卒中デイケア プログラムおよび訪問ケアプログラムを試行しました。デイケアセンターでの健康トリムを用いて自主練や瞑想などを通じて、心身の回復を図る活動を、実施しています。

B) ベーカリー職業訓練

DPO(障がい者機構)より、ベーカリーに必要なオープンや、ケーキなどの陳列冷蔵庫などが正式にBSFに移譲され、職業訓練と小さな店舗スペース、屋外カフェがオープンしました。

今期はこのベーカリー職業訓練を継続・運営しました。

JICA 基金を通じて、ベーカリー職業訓練で障がい者を指導するベーカリー専門家を雇用し、職業訓練研修を実施しました。また生産されたパン クッキー パンを小さな店舗やイベントで販売も始めました。

ベーカリー職業訓練プログラムは、夢のみずうみ村の、作業療法・リハビリテーション・夢のみずうみ方式の考えに沿ったもので、仕事・活動を通じてリハビリテーションを図り、障がい者が社会参加し、また将来自分で起業して、生業や収入につなげるために、実施しています。現在3名の障がい者を中心にベーカリー職業訓練プログラムを週5回実施しました。

(2) 実施成果：

【実施内容①】 調査・啓発・職業訓練を通じて人材育成を行う。

- A) 国連機関（UNDP）や労働省など行政との連携 病院との連携 ブータンの SCR 民間団体（DPO 障がい者機構）との連携を通じて、BSF の社会認知が進みました。
また脳卒中の予防や、リハビリテーションについて、行政・病院関係者の理解や進みました。
- B) JICA ブータン事務所、NSF, CSOA, 看護短大、ADB, FABLAB, 日本大使館との連携・意見交換を行いました。
こうした意見交換を通じて、脳卒中に関する情報が、大学 短大などの教育機関などで紹介され、啓発が進みました。

【実施内容②】 ブータン脳卒中協会のスタッフやボランティアが夢のみずうみ方式「健康トリム」や在宅でできる理学療法などの技能を身につける。

- A) 理学療法士の竹内理子さんが、英語で理学療法の講習会を、ZOOM で実施しました。
月に1～2回のペースで合計12回実施しました。①ボランティアに指導する回、②他の職業訓練コースで学んでいる若者を対象にしたもの ③脳卒中後遺症障がい者対象の少人数講習 など その時のニーズや要請に合わせて実施しました。
- B) ブータンの伝統的な生活や文化を用いてのリハビリを、開発しました。
チーズ作りや粉挽など生活を用いての自主練リハビリメニューなど

【実施内容③】 脳卒中患者の利用者が年間通して活動できる、デイケアセンター での小規模プログラム（ベーカリー職業訓練）などを継続する。

- A) 小規模プログラム施行
首都ティンプーで小規模 脳卒中デイケア プログラムおよび訪問ケアプログラムを試行しました。さまざまなメニュー（ヨガ 習字 生活を用いてのリハビリ など）
- B) ベーカリー職業訓練
職業訓練を通じて、実力を高めた、脳卒中後遺症の障がい者等が、独立し、自分達でベーカリーを運営することができるようになりました。ベーカリーショップは現在障がい当事者で運営されています。

(3) 得られた教訓など：

ブータンでは、多くの公務員がリストラにあい、多くの公務員・教師などがオーストラリアなどに流出しました。そのため、本事業を理解し支えてくださった人々が、ブータン国を離れたり、他の部署や役割に変わりました。せっかく築き上げたネットワークや連携が、人の流出により、あっという間に崩れ去るような事態が起きました。また民間 NGO 団体に対する国の政策も大きく変わり、課税されるようになるなど大きな変化が起きました。ブータンという国自体の経済危機の影響を大きく受け、今回の事業の継続はブータン脳卒中協会にとっても非常に厳しいものとなりました。しかし、理事や事務局長の踏ん張りにより、事業が継続されています。彼らの努力に心より敬意を表します。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

当団体メンバーの身体的 経済的限界のために、当団体が今年度提供できたことは、チャレンジ枠で実施した時よりも減ってしまいました。しかしブータン脳卒中協会がさまざまな困難の中でも、継続しており、また理学療法士竹内理子によるオンライン講習会も継続されています。オンラインでのフォローアップを継続してまいります。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(2) 活動の写真



ベーカリーショップと小さなカフェ



ベーカリー職業訓練 クッキーづくり





お祭りでベーカリーで作ったものを販売しました。



NGO などとの連携

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

チームリーダーの藤原茂の体調不調や、当団体の経済的状況の悪化などのために、当団体にもブータン脳卒中協会についても、この1年は厳しい1年でありました。しかし、そのような厳しい中でも、継続できたのは、JICA 中国 JICA ブータン事務所が、気にかけてくださり、足を運んでくださり、励ましてくださったからでした。心より感謝申し上げます。ブータンの支援を継続したいのは山々なのですが、さまざまな限界から当団体が JICA 基金活用事業を継続できないのが、たいへん残念です。どうぞブータン脳卒中協会をブータン現地で励まし続けてくださいますよう、心よりお願い申し上げます。